

平成 23 年度 小川小学校 学校要覧



「複式授業の充実（自主学習力の向上）」

自主研究校

【めざす子ども像】

- ◇ 健やかに安全な生活を送る子ども
- ◇ 意欲的に自ら学ぶ子ども
- ◇ 思いやりのある心豊かな子ども

1 教育目標

しっかり動き、じっくり学び、みんなで育つ

2 教育方針及び指導の重点

○安全安心な生活態度の確立・体力の向上

基本的な生活態度や自己管理意識の定着
体力や運動能力の向上

○学ぶ意欲の醸成・確かな学力の定着

児童理解や評価の工夫
授業や国語科における研究の充実

○人間力や集団力の育成・家庭や地域との連携

自己肯定感や帰属意識の醸成
体験活動や交流学习の充実
家庭や地域とのつながりと学校評価の活用

3 職員組織・児童在籍状況

<職員組織>

| 職 名 | 担 任 等 |
|-------|---------|
| 校 長 | 1 年担任 |
| 教 頭 | 3・4 年担任 |
| 養護助教諭 | 5・6 年担任 |
| 事 務 | |
| 給食・校務 | |

<児童在籍状況>

| 学 級 | 男子 | 女子 | 計 | 家庭数 | |
|-----|-----|----|----|-----|---|
| 1 年 | 3 | 1 | 4 | 1 | |
| 複式 | 3 年 | 1 | 5 | 3 | |
| | 4 年 | 3 | 0 | 3 | 1 |
| 複式 | 5 年 | 2 | 2 | 4 | 4 |
| | 6 年 | 4 | 3 | 7 | 7 |
| 計 | 16 | 7 | 23 | 16 | |

4 現 職 教 育



研究主題

「全員が参加する授業の工夫」

～複式授業の充実～

研究課題： 目指す児童の学ぶ姿

「 **おがわ** の子 」

お もいを伝える子 = 話し合い活動の充実

- ・ フリートーク活動の充実により培った聞く・話す力を国語科や他教科の授業の中でも活用し、読解力を育成する。

が んばる子 = 直接指導・間接指導の充実

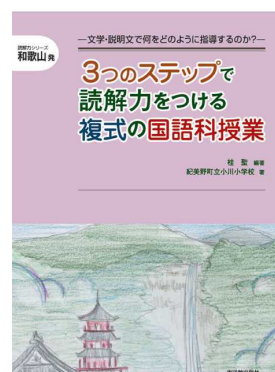
- ・ 学年に応じた目標を設定し教科係を育成する。
- ・ ワークシート学習を発展させ、自分の思いや考えをまとめて書いたノートづくりの指導方法を研究する。
- ・ 全員が楽しく「わかる・できる」ような授業づくりの工夫について研究する。

わ かりあえる子 = 相互理解の深化

- ・ 教師が一人ひとりの子どもの見取りを大事にし、単元を学習する前と後の考えの変容を把握する。
- ・ 特別な支援を必要とする児童についての実態把握をしておき、その子に応じた支援、手だてを計画して、授業を工夫する。

<小川プランによる国語科の読解力の育成>

- ・ 各学年の説明文・文学作品の読み方を3つのステップを設け整理し、全学年を見通した系統的な指導を行う。



5 学校経営方針

<信頼される学校>

1 開かれた学校運営・教育活動

- 学校からの積極的な情報発信
- 授業や学校行事の公開
- 学校評価の活用



2 家庭・地域との連携・交流活動

- 保護者や地域の人々からの学び(ゲストティーチャー・共同学習)
- 地域の諸団体や関係機関、保・小・中・高校等とのつながり
- 小川子ども守り隊との連携

<「ことば」と「体験」を基盤とした3力の定着>

1 たくましい体力

- 基本的な生活習慣や規範意識の定着
- 毎朝の10分間トレーニング(持久走)・体育授業の充実
- きのくにチャレンジランキング・町マラソン大会への参加

2 確かな学力

- 朝の読書活動や基礎学習・家庭学習の充実
- 教科係を核とした自主学習力の向上
- フリートーク活動を活用した話し合う力の育成
- 全国学力・学習状況調査や県漢字博士検定試験の活用

3 人間力・集団力

- 自分や家族、友達や周りの人を大切にする心の育成
- 学級活動や児童会活動、たてわり班活動の充実
- 体験活動(米・野菜・花づくり、伝統文化、現代的課題)の充実
- 年齢や文化の異なる多様な人々との交流の促進

<教職員の組織力と自己研鑽>

1 職員のチームワーク

- 報告・連絡・相談の徹底と情報の共有化
- 個々の持ち味を生かしあえる集団づくり

2 児童の把握・支援

- 一人ひとりの長所を伸ばす取組と評価の工夫
- 体験活動をとおした感性や市民性の育成
- 保護者・地域の人々とのつながりの重視

3 授業・自主研究への努力

- 言語活動を重視した指導方法の工夫改善
- 意欲的・自主的に学習できる学級づくり
- 複式授業で読解力を育てる研究の充実

6 学校沿革の概要

- 明治 6年 小川小学校を東福井字棟谷542番地に設立。同地小川八幡神社境内神宮寺をもって校舎とする。(本年度 開校137年目)
- 26年 小川尋常小学校と改称する。
- 38年 高等科を設立する。小川尋常高等小学校と改称する。
- 昭和 5年 梅中尋常小学校と合併し、小川尋常高等小学校と改称。校地を中田島に定める。
- 16年 小川国民学校と改称する。
- 22年 小川村立小川小学校と改称する。小川小学校育友会を発足する。
- 29年 完全給食を実施する。
- 30年 野上町立小川小学校と改称する。
- 31年 校歌を制定する。
- 40年 鉄筋校舎を竣工する。
- 47年 プールを竣工する。
- 50年 体育館を竣工する。創立百周年記念を行う。
- 59年 給食室を竣工する。
- 63年 吉野分校を閉校する。(開校より77年)
- 平成 3年 県・町指定生活科推進校研究発表会を開催する。
- 6年 多目的ホール、児童玄関、水洗トイレを竣工する。
- 12年 文部科学省指定人権教育研究発表会を開催する。
校舎大規模改造工事を竣工する。
- 16年 15・16年自主研究発表会を開催する。
- 17年 小川子ども守り隊を発足する。
- 18年 紀美野町立小川小学校と改称する。
(県)きのくに学びの創成支援事業研究発表会を開催する。
- 19年 (県)きのくに学びの創成支援事業研究発表会を開催する。
- 20年 複式授業における国語科の研究をまとめた本
『和歌山発 3つのステップで読解力をつける複式の国語科授業』を出版し、自主研究発表会を開催する。
- 21年 自主研究を継続するとともに、「全国複式国語授業研究会」を発足し、夏季研修会及び冬季授業研修会を開催する。
- 22年 自主研究を充実させ、「全国複式国語授業研究会」夏季研修会及び冬季授業研修会を開催し、同研究会より『複式発 国語授業の教科書—これだけは知っておきたい国語授業づくり Q&A40』を出版する。